

当帰四逆加呉茱萸生姜湯の臨床研究報告

【監修】 医療法人社団 仁志会 岡本整形外科

岡本 仁志

原著論題

冷えを伴う腰部脊柱管狭窄症の下肢痛および腰痛に対する 当帰四逆加呉茱萸生姜湯の有効性の検討

腰部脊柱管狭窄症（LSCS）は下肢の痛みや腰痛などを主訴とした日常診療でしばしば遭遇する疾患である。疫学調査によればLSCSは加齢とともに増加し、60歳代では20%、80歳代では40%が罹患すると報告されている。LSCSの症状は、加齢に伴う脊柱の変性により腰部脊柱管の狭窄を惹起し、馬尾神経や腰部神経根を圧迫することで出現する。臨床症状は、立位の持続や歩行により悪化するが、体位変換や腰椎前屈により緩解する。

東洋医学では、整形外科領域の「痛み」を誘引、悪化させる要因として「冷え」の存在を重視している。今回、下肢の冷えを訴えるLSCS患者に当帰四逆加呉茱萸生姜湯を投与し、下肢痛・腰痛などの症状改善を検討した。その結果、日整会腰痛治療成績判定基準（JOA score）および足関節上腕血圧比（ABI）は投与後に有意な改善を認めた。また、全例で痛みを伴う強い冷え症状の訴えがあったが、投与後には症状の消失が認められた。

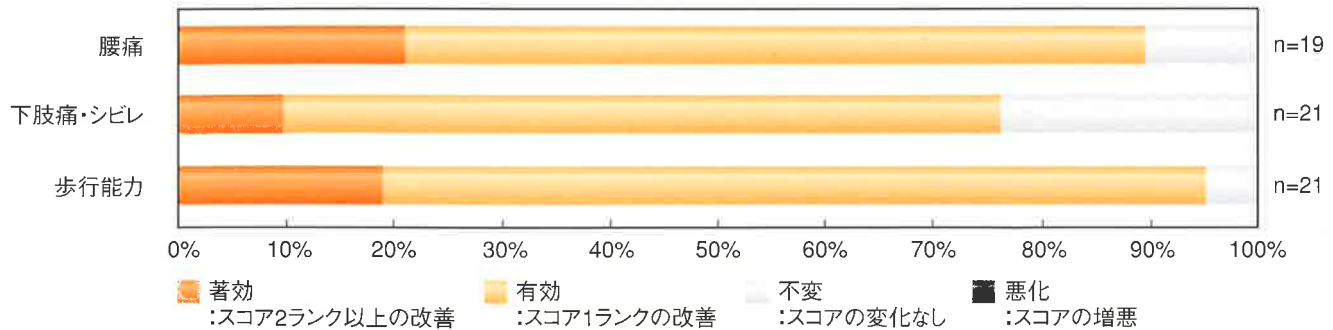
以上のことから、当帰四逆加呉茱萸生姜湯は冷えを伴うLSCS患者に有用な薬剤であるといえる。

医学と薬学 66(6);985-992, 2011

本誌記載内容は執筆・監修者の原著および引用に基づいており、内容の一部に医療用漢方製剤の承認外の記載が含まれています。医療用漢方製剤の使用にあたっては、各製剤の添付文書などをご覧くださいませようお願い申し上げます。

腰痛，下肢痛・シビレ，歩行能力の改善

有効以上の割合は，腰痛89.5%，下肢痛・シビレ76.2%，歩行能力95.2%であった。



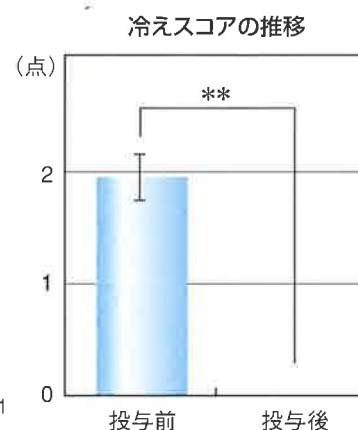
「冷え」の改善

冷え症状は，全例で「痛みを伴う強い冷え」の訴えがあったが，KB-38投与後には症状の消失が認められた。また，舌の状態も寒証を示す淡白色であったが，KB-38投与後は淡紅色となり，冷えの改善が示唆された。

冷えスコア3段階評価

2：痛みを伴う冷え，1：痛みを伴わない冷え，0：冷えなし

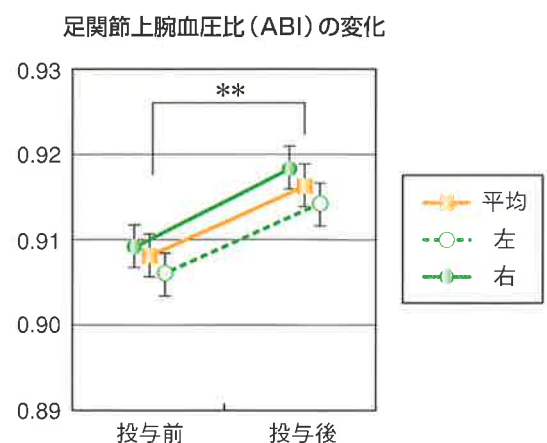
n=21, 平均±S.D.
Wilcoxon符号付順位和検定, **, p<0.01



当帰四逆加呉茱萸生薑湯と血流改善

KB-38投与後により，ABI（血流変化の指標）で有意な改善が認められた。一方，CAVI（血管内皮機能の指標）では有意な変化を認めなかった。このことから，KB-38は，血流を改善することが示唆された。

n=19, 平均±S.D, t-検定, **, p<0.01



まとめ

冷えを伴うLSCS患者の下肢痛および腰痛に対してKB-38を投与したところ，冷え症状を改善し，JOA scoreで有意な改善が認められた。また，KB-38には血流改善作用があることが示唆された。

全例で冷え症状が消失し，痛み，シビレを示唆する自覚症状で高い改善が認められたことから，冷えを伴うLSCSでは，「冷え」の存在が痛みを引き起こし，「冷え」が長引くことで病態が停滞・悪化していると考えられた。また，「歩行能力」と「冷え」との間に相関関係傾向がみられ，冷えの改善がLSCSの症状改善に関与していることが示唆された。なお，調査期間中，KB-38に起因した副作用は認められなかった。

【対 象】 2009年10月～2010年8月に当院を受診し、LSCSと診断され下肢の冷えを訴えた患者21例（男性5例、女性16例、平均年齢 71.6 ± 8.7 歳）

LSCSの診断は、腰部脊柱管狭窄診断サポートツールの合計が7点以上、臨床所見、単純X線およびMRI検査にて確定した。

【調査薬剤】 クラシエ当帰四逆加呉茱萸生薑湯エキス細粒（KB-38）7.5g/日を1日2回に分割して投与した。調査期間中、他の薬剤は原則禁止とした。

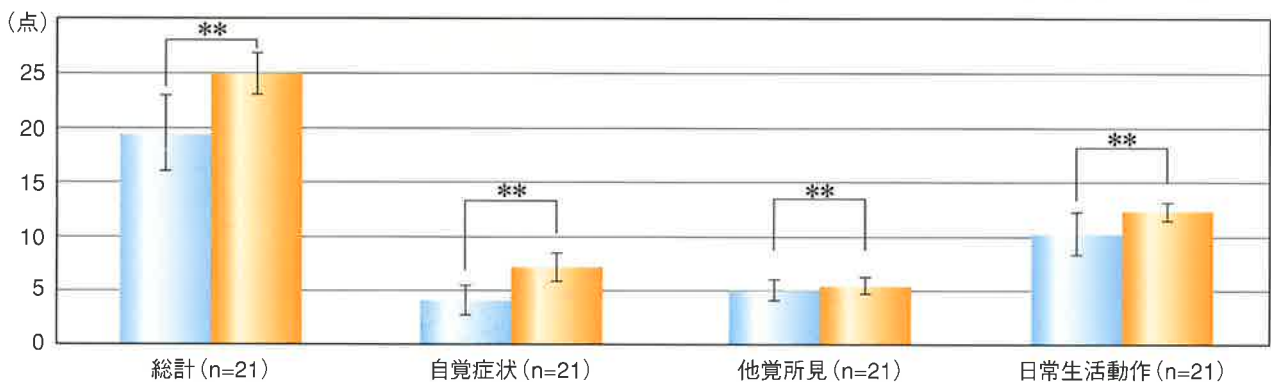
【調査項目】 日整会腰痛治療成績判定基準（JOA score、29点満点）、足関節上腕血圧比（ABI）、心臓足首血管指数（CAVI）、「冷え」に関する問診および舌診を投与前後に実施。JOA scoreのサブスケールより著効（スコア2ランク以上改善）、有効（スコア1ランクの改善）、不変、悪化とし改善率を算出した。

日整会腰痛治療成績判定基準の推移

JOA scoreの総計は、投与前 19.4 ± 3.6 から投与後に 25.0 ± 2.0 となり有意に改善した。なお、膀胱機能に関しては投与前後に症状が認められた症例はなかった。

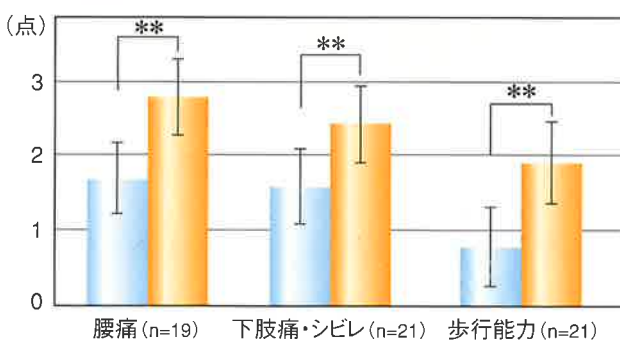
■ KB-38投与前 ■ KB-38投与後

平均 $\pm$ S.D, Wilcoxon符号付順位和検定, **: $p < 0.01$, *: $p < 0.05$

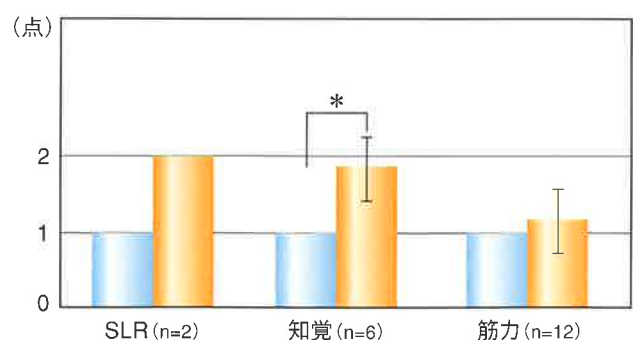


サブスケールスコアの推移

① 自覚症状



② 他覚所見



③ 日常生活動作

